

来春「特殊学級」が発足

水俣病の子供らに福音

ハビ
リー
セン
ターの
湯リ

水俣病で入院して学校に行けない子供たちを、病院内で教育する「特殊学級」が来春から発足することになった。

現在、水俣病患者で義務教育の学齢に達している子供たちは二十四人いる。うち十人は一小、一中の特殊学級に通学しているが、十四人は湯の尻リハビリセンターに入院したまま、教育も受けられない状態。

そこで水俣市は、これらの子供たちの中からなんとか適性に応じた指導教育を始めようと、十六、十七の両日精神科の専門医と水俣病担当医でつくっている特殊学級該当審査委員会で知能程度などを審査した結果、二人が認められた。

しかし、特殊学級を新設する場合は該当者六人以上となっているので市は現在一小の特殊学級に病院から通学している一人と、水俣病に関係はないが同病院に入院している小児マヒ患者二人、自宅療養の小児マヒ患者二人も合わせて計七人にして、特殊学級を同病院内に設置することにした。

形としては、一小の特殊学級の分教室として設置する予定。十九日から始まる九月定例市議会に提案、可決すれば、県教委とも連絡をとり、来春からスタートすることになっている。